

## 第4回 大手前通りみちづくり協議会

日時：平成24年8月11日(土) 14:00～16:00  
場所：商工会議所 201 会議室

### 【 検 討 事 項 】

|                  |    |
|------------------|----|
| 1. 既存承認事項        | 1  |
| 2. 歴史資源の活用       | 2  |
| 3. ポケットパーク計画     | 6  |
| 4. 郵便ポストデザイン     | 8  |
| 5. 電線共同溝地上機器の配色  | 8  |
| 6. 米子橋桁下照明       | 9  |
| 7. 米子橋高欄のデザイン    | 10 |
| 8. 交差点信号柱のデザイン   | 11 |
| 9. 第4回協議会までの検討経緯 | 12 |

# 1. 既存承認事項等

第3回協議会までで殆どの景観アイテムについて、デザインが承認されましたが、その後の関係者協議及び状況の変化により継続して検討すべきアイテムがあります。



## [第3回協議会までの承認事項]

**[街路樹]** 松江に縁があり、四季を感じる樹種として、市内に愛護団体のある「なんじゃもんじゃ」を選定しました。

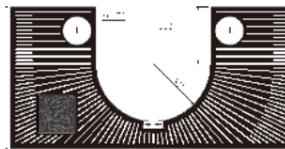
### [歩道照明]



和風、現代風の両方に調和するよう極力シンプルなデザインであり、全体として直線的なポールに杯型の灯具のものを既製品の中から抽出し比較検討しました。この形状は、松江藩の時代から工芸品としてつくられている出雲鍛造工芸品による燭台の形を思わせます。選定するにあたっては、城下町松江の雰囲気と調和するよう障子の棧を思わせるキャストのある本案を選定しました。

灯具は、松江城～米子橋までの区間を和風に調和するよう和紙越しの光を連想させる乳白色の灯具、米子橋～くにびき道路までの区間を現代風にも調和するクリアな灯具とすることにより委員会提言からの方針である「タイムラインの演出」を行うこととしました。

### [植栽マス]



平板舗装の形状に合わせるため、丸形ではなく角形とし、シンプルながらも松江市の花「椿」をワンポイントにあしらうこととしました。色は、御影調の歩道舗装に調和し鋳物の素材自体の色を活かします。シックな和のイメージに調和するシンプルなデザインとしました。

### [舗装材]



委員会で要望のあった黒御影石平板をふまえ、経済性の面から黒御影石平板に色・質感の近い擬石平板を選びました。

選定にあたっては、現地に実際に舗装材のサンプルをモデル展示しました。協議会の委員のほか視覚障がい者、社会福祉団体代表の方も交え、景観や歩きやすさなど様々な観点から検討しました。

また、視覚障がい者誘導ブロックの色彩についても、景観性を考慮した上で無彩色とし、視覚障がい者の方にも視認性は十分であると現地のモデル展示で確認していただきました。



### [ポケットパーク]



買い物や通院の途中に一休みすることのできるツールを備えたポケットパークを整備します。

(1工区において4箇所)

ポケットパークの施設レイアウト等については、「お城の見える視点場」や「歴史案内看板の設置」「休憩できるツール等の設置」「沿線から出土した現地発生石材の活用」等もふまえ計画を作成しました。

### [米子橋桁下照明施設]



道路の拡幅により従前よりも長い橋梁の桁下空間(トンネル)が生まれることから、堀川遊覧における桁下空間の演出をします。「時の架け橋」として、松江城に縁の深いアイコン(石垣の刻印)を用いることで、松江城と米子橋をリンクさせ、松江城下町としてのイメージづくりの一要素とします。

## 2. 歴史資源の活用

城山北公園線における松江城下町遺跡文化財調査により、松江城下町の形成過程で築かれた、石組み水路や礎石、土地造成の遺構等が発見・調査されました。また、松江市は、平成 20 年度に施行された歴史まちづくり法に基づき「松江市歴史まちづくり計画」を策定しており、城山北公園線を含む中心市街地を「旧城下町エリア」として、重点地区に設定し、歴史的風致を尊重したまちづくりが進められています。

城山北公園線の事業においても、発見された城下町遺跡のうち歴史文化資源としてまちづくりに活用できる資源について、専門家の意見をふまえ活かしていきます。

### 歴史調査結果概要

#### [歴史資源活用の視点]

- 城下町形成に関わりが深いもの
- 往時の暮らしが分るもの
- 保存状態が良いもの（展示に適しているもの）

#### [事業者の取扱い方針]

協議会の提言「城下町松江の歴史・文化の感じられるみちを」(H19.2)を受け、以下の事項について街路整備に反映します。

- ・発掘された石組み水路などの石の有効活用
- ・沿道の歴史を紹介する看板設置
- ・沿道空間と調和したまちづくり

ただし、道路機能の基本的考えに反しないこと、及び道路の構造と利用に支障が生じない範囲での活用とします。

#### [道路機能の基本的な考えとは（城山北公園線）]

- 車道 4 車線化で車両交通の容量を確保します。
- 歩道の整備で歩行者と自転車の安全を確保します。
- 停車帯の設置により道路の利便性を高めます。
- 電線類の地中化により災害時の交通を確保します。

#### [道路の構造と利用に影響がある場合とは]

- 車道部では、舗装と舗装下 1 m を不均一な材料で構築すること（不等沈下の原因）
- 沿道利用や円滑な通行に支障が生じる計画高等の変更
- その他、道路構造令等の法令に抵触すること

### 歴史資源の展示・活用についての検討事項

#### a. 鉤型路

（資源概要）鉤型路西側には「舟入川」という堀があり、鎗場橋という橋が架かっていました。橋は埋立により今は存在しません。また戦中の建物疎開により城山北公園線の幅員も大きく変わっており、江戸時代の鉤型路の形状は残されていません。

（取扱い方針）計画道路の全幅 29m に位置するため、鉤型路を保存することは困難である。鉤型路のあった箇所に歴史案内看板を設置して紹介します。



現在の城山北公園線・田町駅前付近の鉤型路（現から撮影）

#### b. 米子川西岸の石垣

（資源概要）京極期の米子川の川幅を裏付ける遺構です。発見された石垣は、外堀石垣と基壇状石垣（米子橋たもとにあった建物の基礎）と考えられます。また、石垣より深い層に水田跡と人の足跡が発見されました。

（取扱い方針）遺構の規模や位置から展示は困難だが、米子橋の橋台施工には支障が生じないので、現状のまま埋め戻し現地保存とします。遺構のある場所には路面標示、看板を設置します。



米子川に沿って南北方向に検出された外堀石垣と基壇状石垣

#### c. 母衣町北側石組み水路と輪違紋

（資源概要）現況のコンクリート水路の壁面裏側に残されており、保存状態のよい石組みについては江戸時代の石組みの特徴を観察することができます。また、ダルマ堂書店跡では松江城の石垣にも見られる「輪違い紋」と呼ばれる刻印が発見されました。

（取扱い方針）計画道路の車道中央に位置し、現状で保存することが困難です。近隣で計画するポケットパークに移設するなどして展示します。



H18 現地説明会、建物基礎等の石組み遺構の状況が説明された

#### d. 母衣町南側石組み水路

（資源概要）北側同様に部分的に残されており、江戸時代の石組みの特徴を観察できる。石材の種類、高さの違いから北側の石組みとは違う年代のものと考えられます。計画道路の歩道部に位置しています。

（取扱い方針）計画の歩道内に位置し、現状で保存展示することが困難なため、道路の構造に支障がない範囲で埋設保存します。



比較的良好な状態の石組み水路

**a. 鉤型路と他歴史資源の案内看板**

歴史調査、文化財調査の結果をふまえ、計6箇所(母衣町2箇所、米子町2箇所、南田町2箇所)に設置予定です。  
(設置箇所及び掲載内容(案))

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 輪違紋の刻まれた石組み水路(北殿町) | 大手前通りに残る江戸時代の石組み(母衣町) |
| 水田跡と外堀の石垣(米子橋付近)   | 米子町の成り立ちと戦中の建物疎開(米子町) |
| 大手前通りの鉤型路と鎗場橋(南田町) | 大橋茂右衛門と与力(南田町)        |

**[活用イメージ]**

鉤型路も含め、城山北公園線沿線の歴史資源の保存・活用にあわせて、歴史案内看板により説明を行います。

歴史看板作成にあたっては、歴史調査結果及び遺跡調査結果をふまえ、それぞれの設置場所のテーマに沿った内容とします。

内容の検討にあたっては、平成16年「大手前通りの歴史を調べる会」による史料収集及び聞き取り、現地踏査等の調査結果をまとめた報告書「大手前通りの歴史」を参考とします。

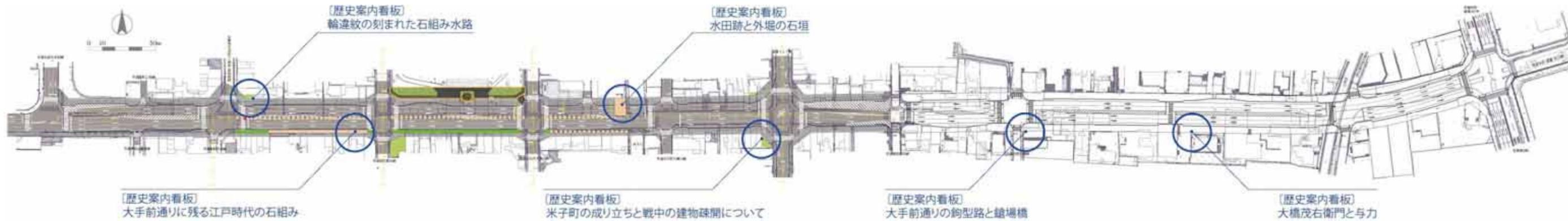
**[その他 歴史案内看板配置イメージ] 市内の歴史案内看板**



説明看板：塩見縄手



案内看板：大手前通り



**鉤型路 歴史案内看板盤面イメージ**

### 大手前通りの鉤型路と鎗場橋

**鎗場橋の地名について** 『田舎事跡』より

幕末、松江藩の加力毒殺を助めていた豊村俊介が、明治後期に書いた『田舎事跡』には、江戸時代の松江の町の様子や藩の編制などが書かれているが、その中に「大手前通り」の様子、「鎗場橋」という呼称の由来なども書かれている。

大手前通りについては、城山二の丸大平口の南の側で一直線に伸びており、東から一直線上に城が見えるように、殿町や母衣町の側路は常にきれいにされていたと書かれています。また、道は米子町と南田町の中央を抜け、「城山」の先に「与力丁」があるとしています。

鎗場橋については、「城山」の南を小さな堀が流れており、そこに小橋がかかっているとし、以前、堀が大きく、大きな橋がかかっていた頃には橋の名がつけられていたかもしれないが、最近では橋の西側に松本茂右衛門邸があり、そこが鎗場橋の語源だったため「鎗(鎗)場橋」と呼ぶようになったと書かれています。

多言語の説明はこちら  
Explanation of the others language

English Chinese Korean

昭和14年強「機工工事」竣工後改築の時の平面図

### 城下町の造成と外堀としての米子川

**水田・湿潤地を埋立て造成された城下町**

城下町造成以前は、湿地帯であったとされていますが、本調査地では、耕作中の足跡や畦畔などが発見され水田であったことが分っています。宝暦年間(1761~1769)にまとめられた『雲南大教録』によると、母衣町は中世には末次郷(村)にあたり、中野、黒田、奥谷、菅原とともに田原の存在を示す記述が見られます。

**外堀としての米子川**

京都府(1634~1637)の松江城下町絵図によると、外堀(米子川)の川幅は19間(約36m)・深さ4尺(約1.2m)と記述されています。右川は、堀尾・京極藩にはまだ築かれておらず、幕府であった可能性が高く、松平期になってから作られたと考えられています。また、松江城石垣ではシダ敷きは見られませんが、石垣の工法がよく似ています。

多言語の説明はこちら  
Explanation of the others language

English Chinese Korean

外堀の石垣

### 大橋茂右衛門と与力

江戸時代中期の延享年間絵図によると、南田町には松江藩の筆頭家老である大橋茂右衛門の広大な屋敷があったことが記録されています。大橋家は、縁戚のあるものを与力として採用し大橋家を中心とする家臣団を組織し、屋敷のそばに与力屋敷を構えていました。文化財調査では与力の屋敷跡とともに土人形やキセル、寛永通宝などの通貨が発見され、中でも珍しいのは、文字の横本盤所に穴の空けられた通貨で、お守りなどで身につけるために穴が空けられたと考えられます。与力屋敷があった老後として、明治41年(1908)の松江市街図によると、この地帯は「与力町」と表記されています。

**与力とは**

侍大將・足輕大將など上級家臣を管轄(よりおや)とし、その指揮下に属した親分の武士のことです。この調査地には、井口家と小嶋家が屋敷を構えており、長に40石が与えられ土河(藩士)に取り立てられています。

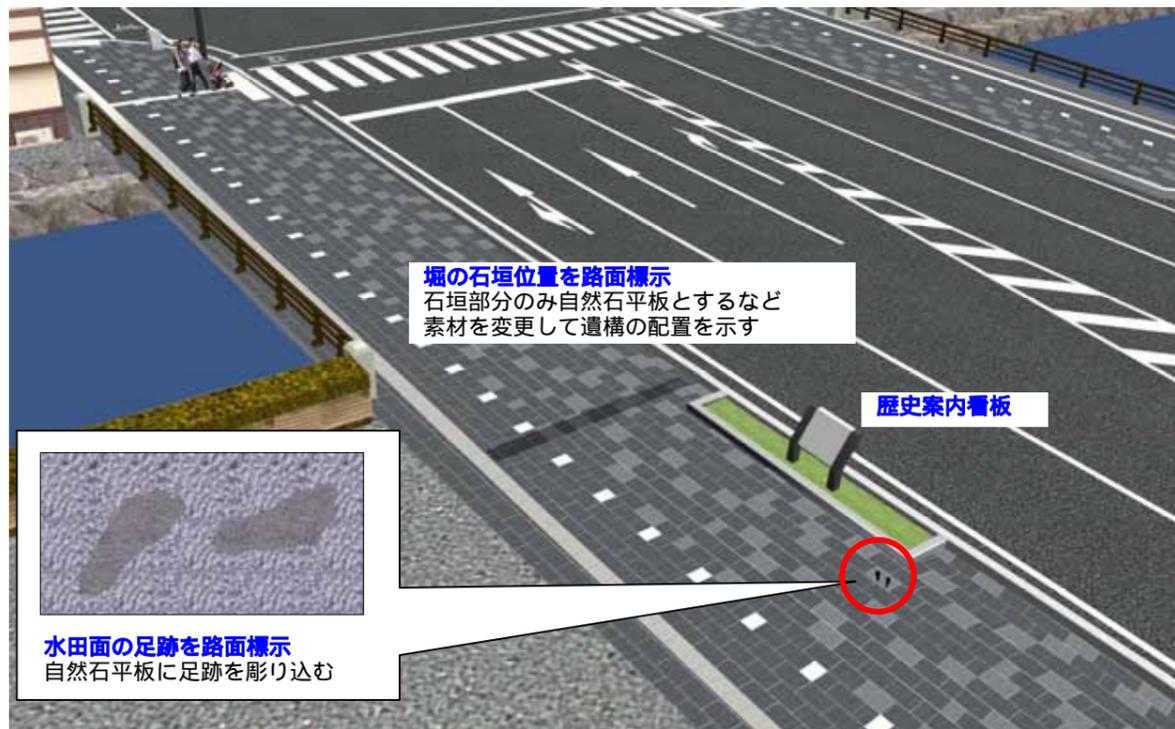
多言語の説明はこちら  
Explanation of the others language

English Chinese Korean

穴空け古銭

明治41年の松江市街図

**b. 米子川西岸の石垣等**  
〔整備イメージ〕



**c. 母衣町北側石組み水路と輪違紋石**  
〔整備イメージ〕

輪違紋の刻印を含む石組み水路を近隣で計画するポケットパークに移設し展示します。



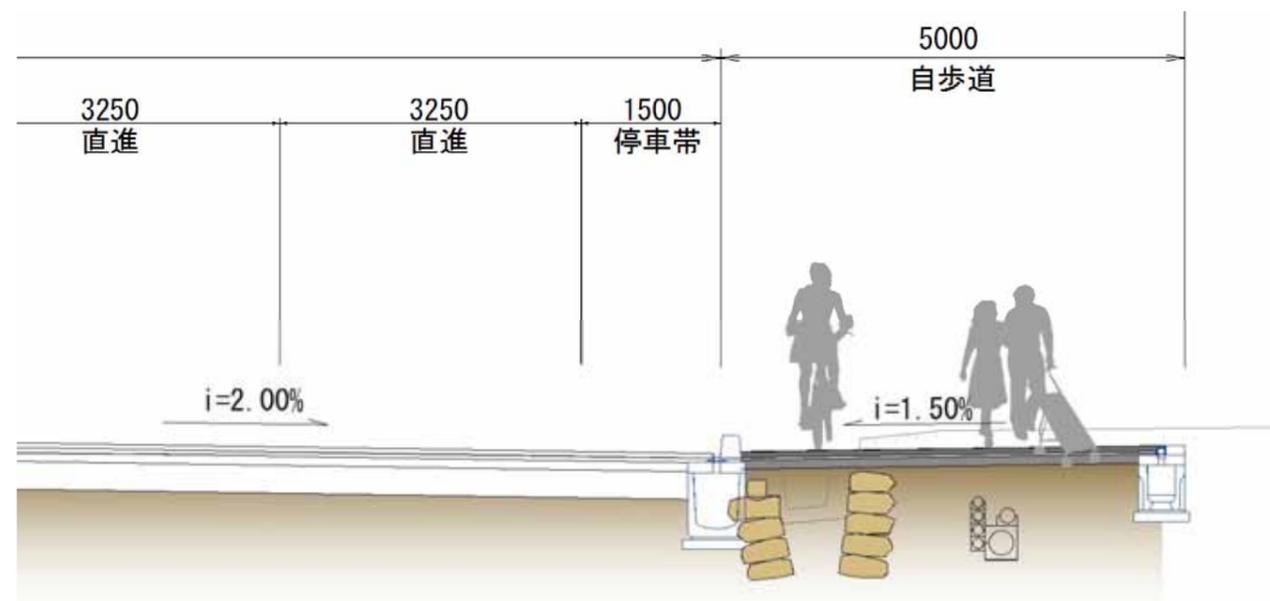
H18.10.21 城下町遺跡現地説明会の様子



だるま堂跡から発見された輪違紋

**d. 母衣町南側石組み水路**  
〔整備イメージ〕

道路の計画に支障とならない範囲で埋設保存します。  
自歩道を従前のまま 5.0mとし、自歩道外に停車帯 1.5mを設けます。  
車道部の車線幅員は 3.25mとします。



# 城山北公園線沿線の歴史資源

## 松江の誕生

関が原の戦いにおいて、浜松城主堀尾忠氏は父の吉晴とともに家康方に見方し、その戦いの恩賞として出雲隠岐 24 万石を拝領し、現在の安来市広瀬町の月山富田（とだ）城に入りました。しかし富田城は、城下として立地条件が極めて悪く、末次郷の亀田山（標高 28.5m）に新たな城と城下町を建設することになりました。松江は築城・城下町造成と共に誕生しました。お城が築かれた亀田山には、いくつかの寺社があり、山腹や山麓には農民・漁民の家が点在し、周りには水田や沼が広がりが少し離れた東側は入江になっていました。堀尾吉晴の総指揮のもとに慶長十二年（1607）から始まった工事は寺社の移転と資材運搬のための木橋（初代松江大橋）の架橋から着手しました。次年次からの本格工事の中で亀田山と北の赤山との間にあった宇賀山を切り崩し掘

り下げて、今の塩見福手の屋敷・道路及び大堀を作りました。大堀は幅約 60m、深さ 2~3m ありました。その残土で湿潤地を埋めて武家屋敷のための用地造成が進められました。城東地区の南田町・北田町はこの時に湿地の上に作られた町です。築城・城下町造成の事業は慶長十六年（1611）に一先ず終わりました。旧城下町富田に残っていた家臣や町人・寺院も次々に移転しました。この頃、この地を「松江」と呼ばれるようになったと言いますが、その名の由来と命名者については、古来多くの言い伝えがあります。

## 松江藩の殿様と事蹟

堀尾氏は三代の忠晴で断絶、変わって若狭国から移封されてきた京極氏も一代で断絶しました。寛永十五年（1638）、徳川家

康の孫にあたる松平直政が備前松江から入府し、出雲 18 万 6 千石と隠岐 1 万 8 千石を領する松江松平藩の祖となり、以降十代、明治維新まで続きました。松平藩の財政は始めから苦しく、五代宣維（のぶずみ）の時代には窮乏を極め、六代宗衍（むねのぶ）の時と、七代治郷（はるさど）の時の二度にわたる財政改革を行いました。その骨子は徹底した藩財政の引き締めと、米（年貢の対象）以外の現金収入を図る殖産奨励でした。これにより出雲は藩も領民も次第に富み、幕末には他に見られぬ豊かな国になりました。殊に、藩が直営事業として開設した「木実方（きのみかた）」（紙）・「人參方」（薬用人参）・「釜籠方（ふそう）」（鋳物）の収益は大いに藩財政を潤し、十代定安が文久二年（1862）に購入した二隻の軍艦（第一・第二八雲丸）の代金にも当てられました。

（資料：歴史と堀川のまち城東パンフレット H22.11 作成）



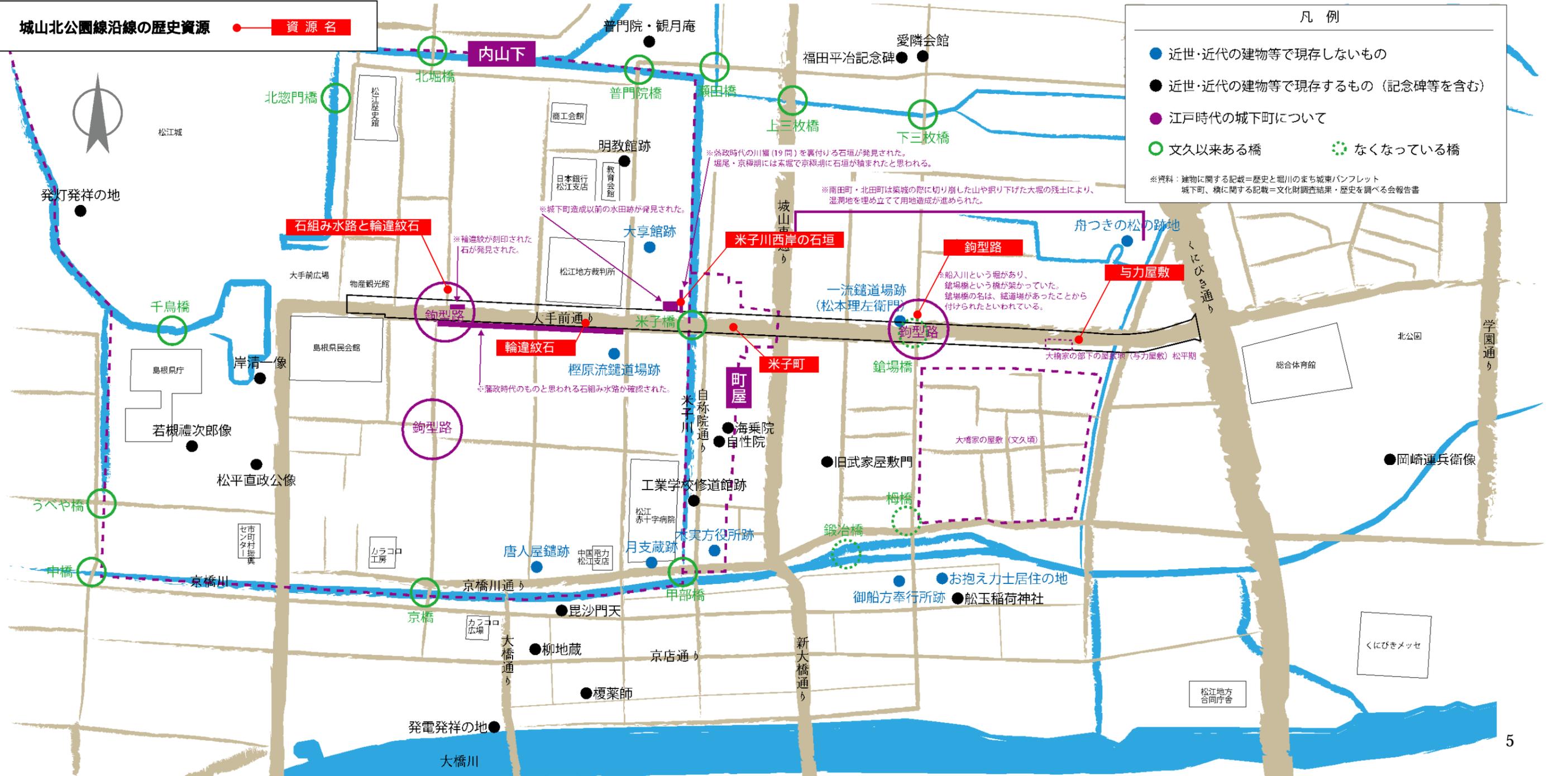
木実方役所



旧武家屋敷門



お抱え力士 雷電為右衛門



### 3 . ポケットパーク計画

城山北公園線の沿道家屋移転等に伴い生じる小規模な土地を活用し、買い物や通院の途中に一休みすることのできるスツールを備えたポケットパークを整備します。1工区において4箇所を計画しており、ポケットパークの施設レイアウト等については、「お城の見える視点場」や「歴史案内看板の設置」「休憩できるスツール等の設置」、「沿線から出土した現地発生石材の活用」等もふまえ計画を検討しました。

#### 承認事項

##### [共通事項]

- ・整備工事時に沿道から発生した地元産の石材（来待石、島石、大海崎石）を活用します。
- ・松江城天守閣が望める箇所については、「視点場」としてベンチや表示を設けます。
- ・ポケットパーク内の舗装材は、歩道舗装と一体感のある材料を採用します。

##### [北殿町ポケットパーク]

- ・文化財調査により発見された輪違紋の刻印を含む石組み水路を移設し展示します。
- ・展示内容を説明する歴史案内看板を設けます。

##### [母衣町ポケットパーク]

- ・「みちの縁側」として、ベンチやシンボルツリー、歴史案内看板を備えた憩いの場としての機能を備えます。
- ・沿道において松江城天守閣が見える一番近いポケットパークである。お城を眺める視点場の機能としてベンチを設けます。
- ・シンボルツリーは、市内に愛護団体を有する「なんじゃもんじゃ（ヒトツバタゴ）」とします。
- ・松江城石垣の刻印をモチーフとして、公園の石積等に同様の刻印を設けます。
- ・シンボルツリーを敷地の中央に置かないなど、イベント時等のスペース利用がしやすい配置に配慮します。

##### [米子町ポケットパーク]

- ・計画地付近からは、松江城天守閣が望めます。天守閣の望めるスポットにおいて、表示タイルを設けるなど、「視点場」としての機能を備えます。
- ・シンボルツリーは、市内に愛護団体を有する「なんじゃもんじゃ（ヒトツバタゴ）」とします。
- ・松江城石垣の刻印をモチーフとして、公園の石積等に同様の刻印を設けます。



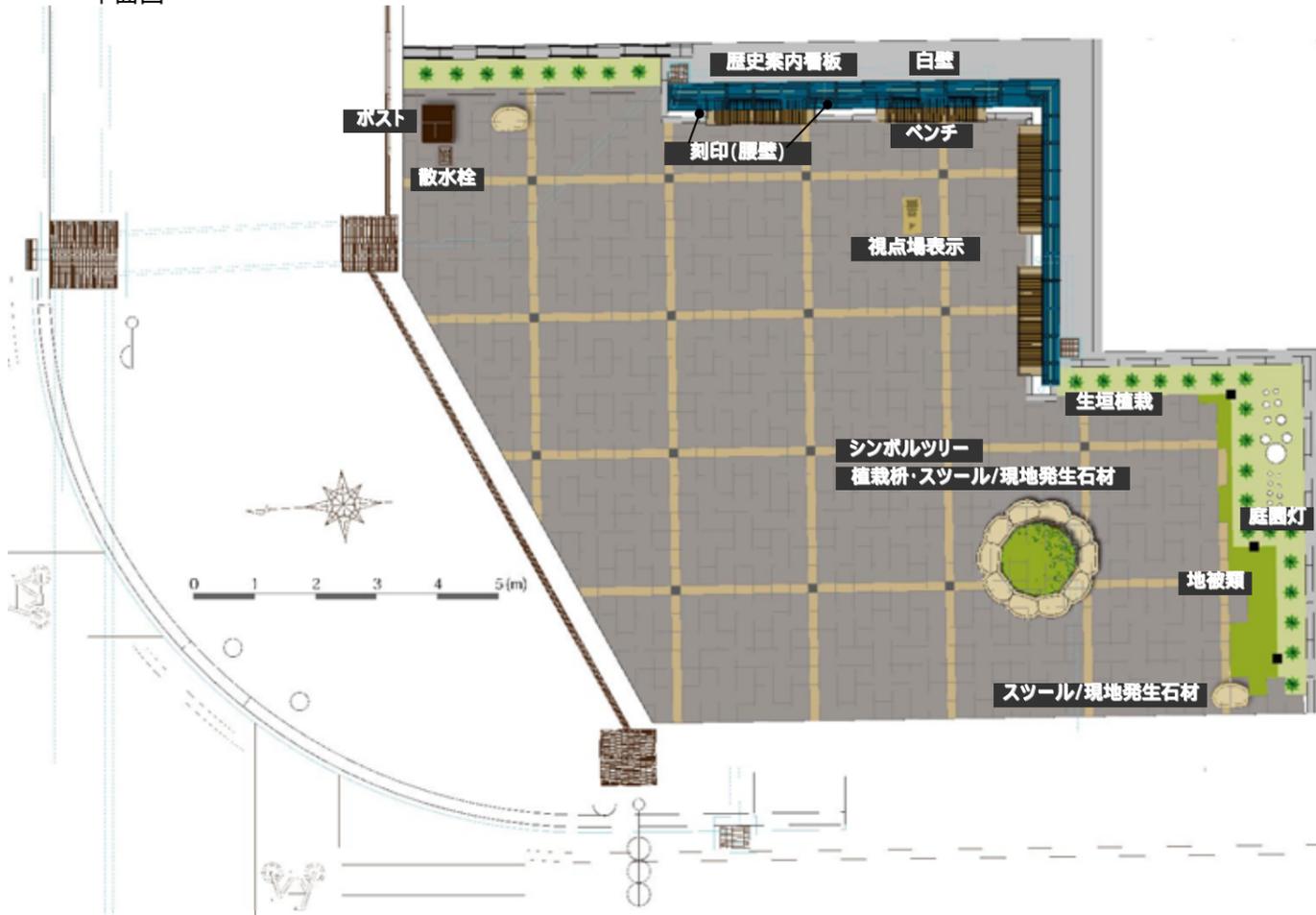
[母衣町ポケットパーク]  
イメージ



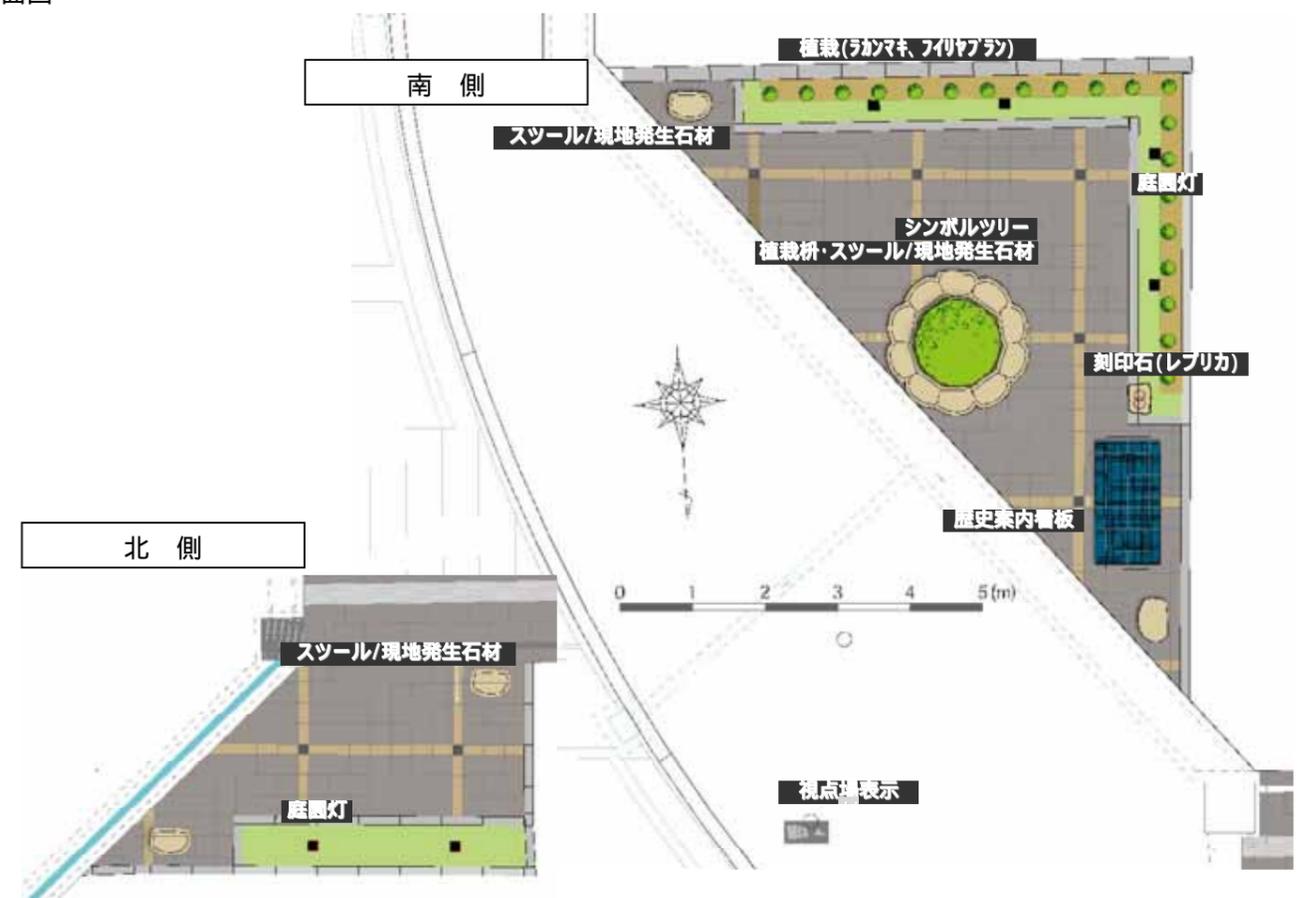
[米子町ポケットパーク]  
イメージパース



平面図



平面図





## 6 . 米子橋桁下照明

### 承認事項

- ・堀川遊覧船からの視点を考慮します。
- ・照明はLED とします。

### 城山の石垣の刻印をモチーフとした場合



松江城は、城下町を見下ろす松江市街地のシンボルです。1607～11年にかけて築かれた松江城の石垣には、築城に参加した堀尾家の家臣や石工集団が、自分たちが運んで来た石であることを証して刻んだ刻印があります。刻印は約20種あるといわれ、松江城二の丸下の段に築かれた南北約200mの石垣には、約200個の刻印が印されているといえます。

石垣に刻まれた刻印は、多くの人の手で松江城が築かれた証であり、現在でも松江城に赴けば見ることのできる歴史からのメッセージです。刻印の大きさは、分銅紋で30cm弱、ほか10～20cm程度です。



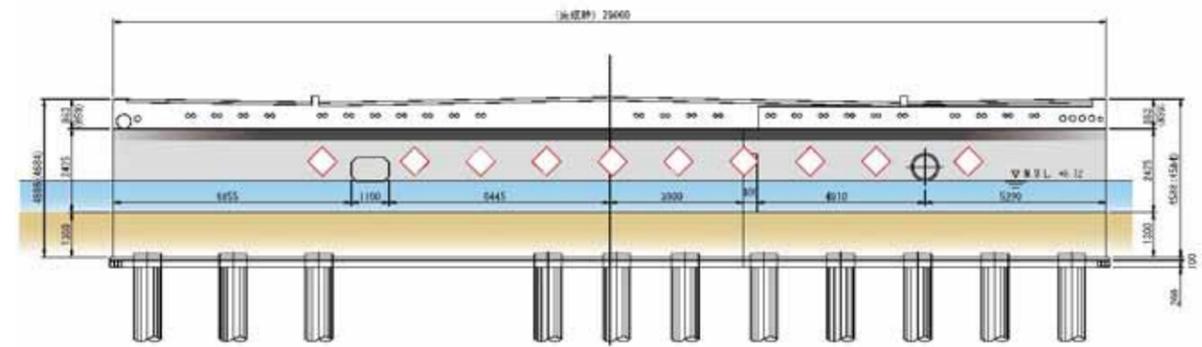
左) 堀尾家の傍系の親族のものと思われる「分銅紋」  
右) 堀尾家の家紋「輪連紋」、城山北公園線沿線の水路の石組みからも発見された。  
他、約20種の刻印がある。

### 〔配置イメージ〕

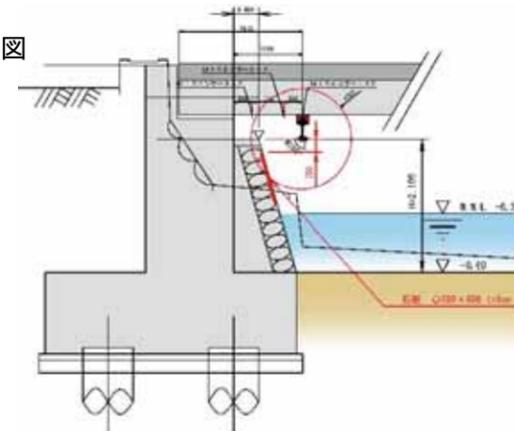


### 整備イメージ

#### 側面図



#### 側面図



約29mのトンネル状の米子橋桁下空間を活かし、桁下の河川護岸に刻印を施した石板をはめ込む。

石板に施された刻印を照明で照らすことにより、真っ暗なトンネル空間を華やかに演出する。また、刻印は松江城の石垣に記されているものをモチーフとしており、米子橋と松江城周辺のまちあるきや観光周遊を目的としたイメージのリンクづけをするものである。

#### イメージパース



## 7. 米子橋高欄のデザイン

### コンセプト

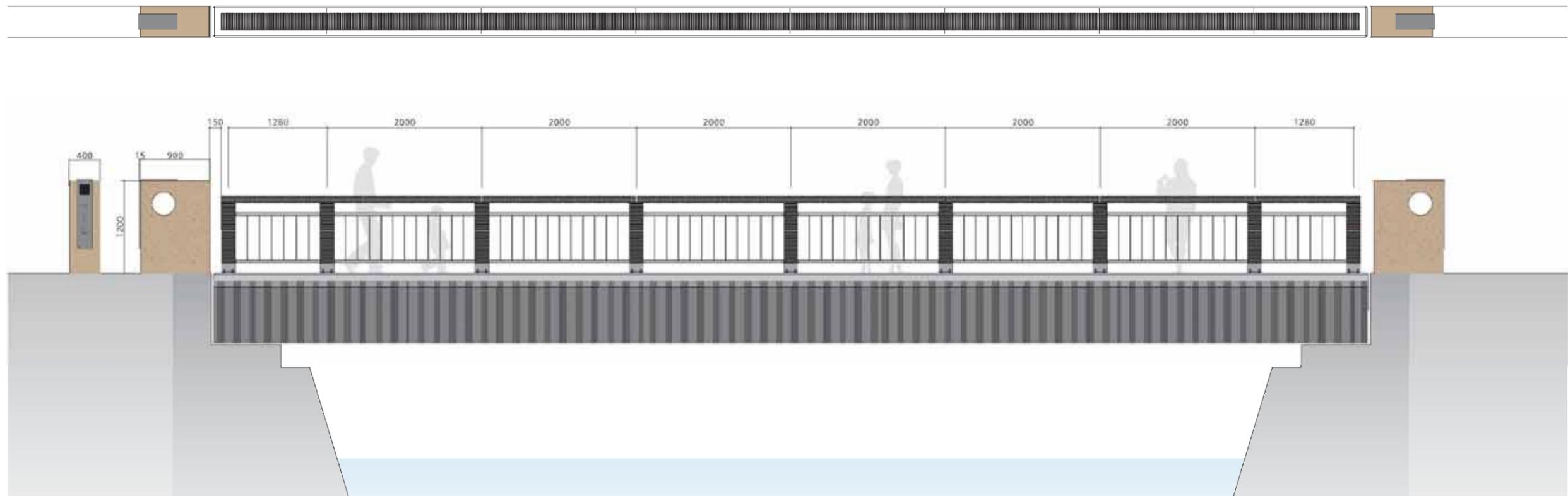
米子橋の橋長は15m程度と短く、街路としてはワンポイント的な、しかし大手前通りにとっては歴史的に重要な整備拠点です。通り及び掘割の風景に融け込むさりげなさの中に、歴史の重みを感じられるデザインを追求しました。敢えて歴史のモチーフを用いず、シンプルな造形性の中に確かな素材を用いて時間が経っても飽きのこない息の長いデザインを目指します。

高欄支柱は鋳鉄製、笠木はアルミ鋳物として確かな質感を保ちつつ、格子は鋼管+フラットバーとし、川への視線を遮らない透過性の高い形です。

また、桁隠しは軽量化を計ってアルミの押出材とします。親柱は橋台に設置することで加重制限を受けないため、地元産の来待石を用いました。親柱は、シンプルな矩形ながら照明内蔵のブロンズ橋銘板と穴をくり抜き、そこに照明を内蔵し、橋梁全体のグレードを上げます。

全体的には和のエッセンスを大切に、シンプルでありながら味わいのあるデザインとしています。また、歩車道境界には、来待石の縁石と照明内蔵のラインを設置して、境界の視認性と乗り上げ防止を図ります。

### 整備イメージ





## 9. 第4回協議会までの検討経緯

| 月日        | 会議名                               | 内容   | 月日        | 会議名                  | 内容   |
|-----------|-----------------------------------|--|-----------|----------------------|--|
| H18.8~    | (文化財調査 1工区 開始)                    |  | H22.10.5  | 第1回米子町ポケットパーク部会      | ・ポケットパーク計画案承認                                      |
| H19.3     | 大手前通りみちづくり委員会 提言提出                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装材の色,材料(黒御影)</li> <li>・街路樹(なんじゃもんじゃ)</li> <li>・お城が見える視点場</li> <li>・出土した石材の活用、歴史紹介看板</li> <li>・ベンチの設置、街路のイベント利用</li> </ul> | H22.12.1  | 第2回城下町遺跡活用部会         | ・石組み水路(南側歩道内)展示イメージ提示                              |
| H20.10.11 | (委員会提言に対する報告会)<br>歩道舗装材の実物提示      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装材(自然石 擬石に)</li> <li>・石組み水路、石材の活用</li> <li>・歴史案内看板の設置</li> <li>・協議会の設立について</li> </ul>                                     | H23.10.4  | 第1回大手前通り歴史検討委員会(専門家) | ・鉤型路、米子川西岸の石垣、母衣町南側の石組み水路、同北側の石組み水路について事業者の取扱方針を提示 |
| H20.12.15 | (2工区事業認可)                         |  | H23.11.28 | 第2回大手前通り歴史検討委員会(専門家) | ・鉤型路、米子川西岸の石垣、母衣町南側の石組み水路、同北側の石組み水路について整備イメージ案を提示  |
| H20.12.21 | 第1回 大手前通りみちづくり協議会<br>歩道舗装の現地モデル展示 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規約の承認、委員紹介</li> <li>・歩道舗装の実地確認(黒御影調の擬石)</li> </ul>   | H24.8     | 第4回大手前通りみちづくり協議会     | (今回)   |
| H20.1.30  | (母衣町ポケットパークに対する市民アイデア募集)          |  |           |                      |  |
| H21.7.4   | 第2回大手前通りみちづくり協議会                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゾーニング(2ゾーンに分ける)</li> <li>・歩道照明、植栽柵のデザイン提示</li> <li>・ポケットパークの計画案提示</li> <li>・米子橋高欄デザイン案提示</li> <li>・ポストデザイン案提示</li> </ul>   |           |                      |  |
| H21.8.6   | 第1回デザイン部会                         | ・道路施設、ポケットパーク等   |           |                      |  |
| H21.8.31  | 第1回城下町遺跡活用部会                      | ・石組み水路及び裁判所前の石積の展示イメージ提示   |           |                      |  |
| H21.11.11 | 第2回デザイン部会                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路施設のデザイン提案(歩道照明,植樹柵)</li> <li>・米子橋(高欄,照明)の検討</li> <li>・ポケットパークについて</li> </ul>   |           |                      |  |
| H22.3.10  | 第3回デザイン部会                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道照明デザイン・ポール色</li> <li>・米子橋デザインの提案</li> </ul>  |           |                      |  |
| H22.3.25  | 第3回大手前通りみちづくり協議会                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・米子橋高欄デザイン</li> <li>・米子橋桁下照明計画案承認</li> <li>・歩道照明デザイン・ポール色承認</li> <li>・ポストデザイン案承認</li> <li>・母衣町ポケットパーク計画案承認</li> </ul>       |           |                      |  |